

経営比較分析表／団体全体（平成30年度決算）

香川県 香川県広域水道企業団

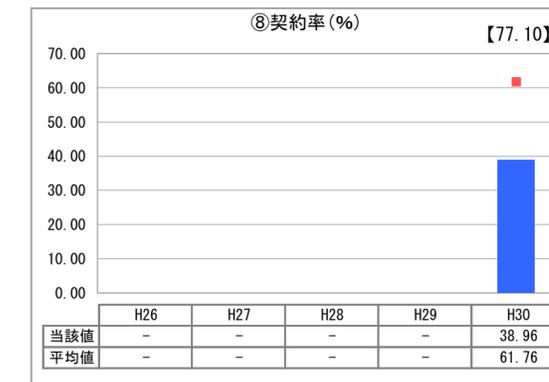
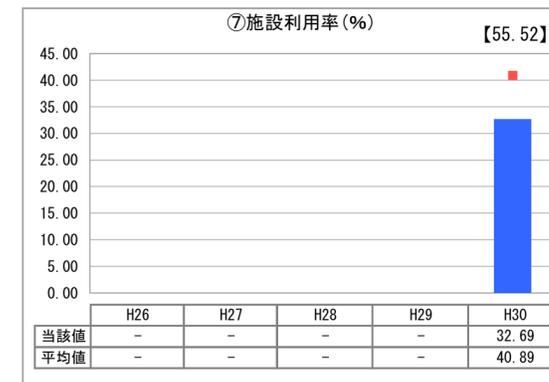
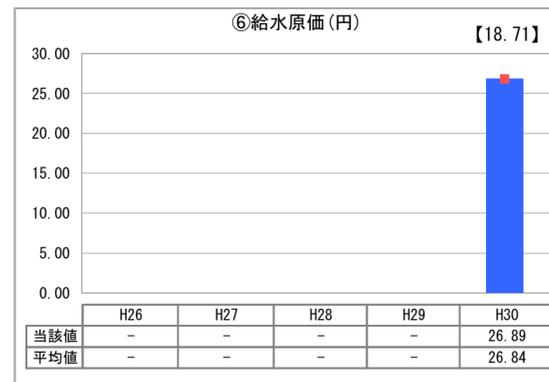
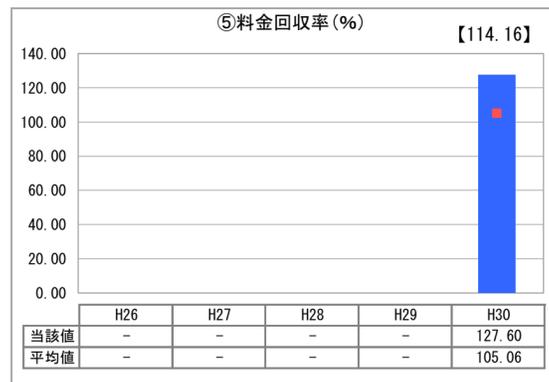
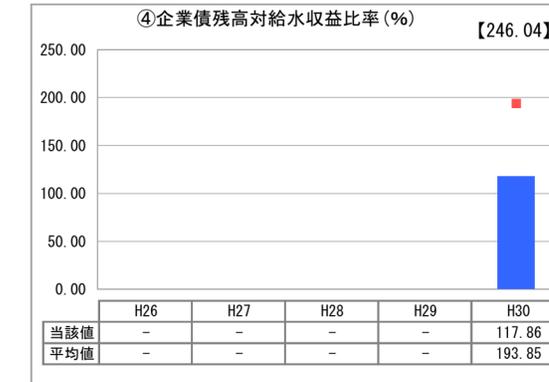
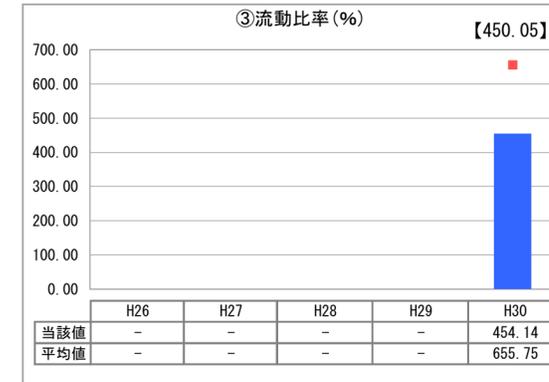
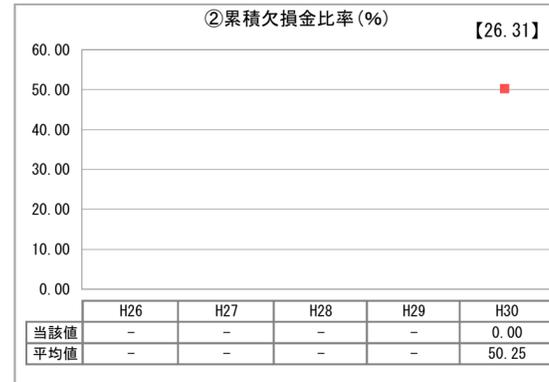
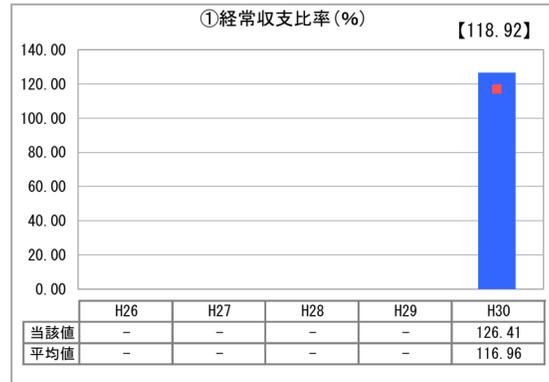
【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	150,000	中規模	1	49,034
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	71.3	38	58,436	自治体職員	

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

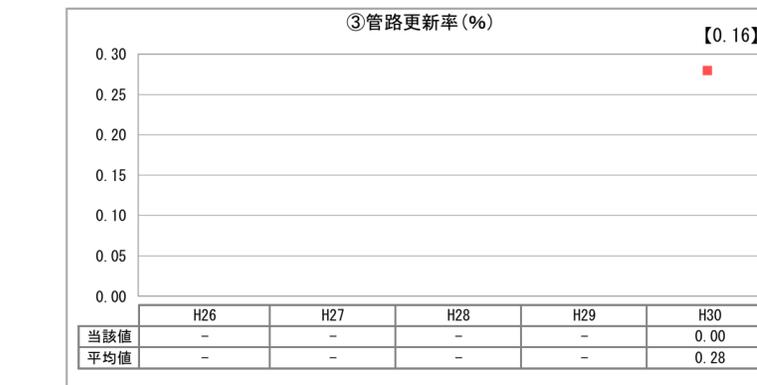
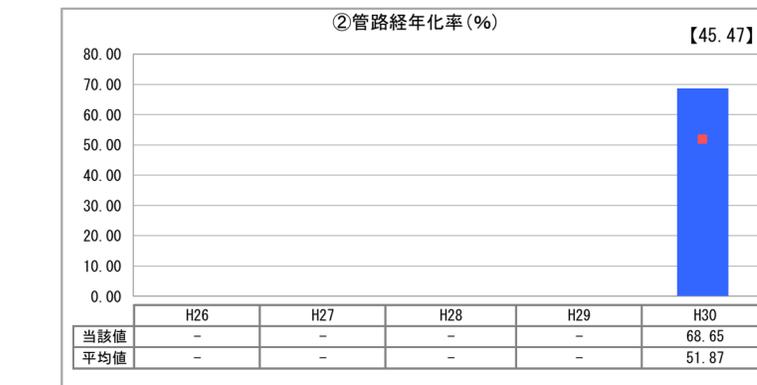
1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率、⑤ 料金回収率はともに100%を越えており、単年度収支は黒字であり給水費用は給水収益で賄われている。
 ③ 流動比率は類似団体平均値を下回るものの、100%を越えており、1年以内に支払う債務に対する支払能力は十分に有している。
 ④ 企業債残高対給水収益比率は類似団体平均値を下回っている。
 ⑥ 給水原価は類似団体平均値と大きな差はない。
 ⑦ 施設利用率、⑧ 契約率はともに類似団体平均値を下回っている。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率及び② 管路経年化率は類似団体平均値を上回っている。また、③ 管路更新率は類似団体平均値を下回っている。このことから、管路等の施設の更新が進んでなく、法定耐用年数を経過した管路を多く保有していることがうかがわれる。
 今後は、施設の統廃合、更新・耐震化を着実に進め、指標の向上に努める。

2. 老朽化の状況



全体総括

平成30年度は、企業団としては初めての決算であり、各指標からは、大きな課題は見受けられない。次年度以降、広域化のメリットを最大限に生かすためにも、業務の効率化・統一化、危機管理対策、施設の統廃合、更新・耐震化の施設整備などを着実に実施し、経営の健全化・効率化に取り組み、各種指標の推移について留意していく。